

## 令和4年度仁淀川清流保全推進協議会全体会 議事要旨

日時：令和4年5月9日（月）14：00～17：00

場所：高知県立高知青少年の家 大集会室

出席者：【委員】石川会長、井上副会長、大下委員、多田委員、近澤委員、中澤委員、小笠原委員、吉村委員、田岡委員、武藤委員

【事務局】自然共生課 河野課長、和田課長補佐、遠近チーフ、綿谷主査（4名）

1 高知県林業振興・環境部自然共生課長あいさつ

2 議事

（1）令和3年度事業報告及び収支決算について

・事務局から【資料1, 2, 3】を用いて説明

・中澤監事から監査報告があり、各委員の異議がなく承認された。

（2）令和4年度事業計画及び収支予算（案）について

・事務局から【資料5, 6, 7】を用いて説明

【主な意見】

【大下委員】

8月に行う予定の仁淀川ふれあい交流体験について、今年度内容を今の段階で、わかる範囲で教えていただきたい。

【事務局】

8月のイベントについては、仁淀川交流会議、仁淀川漁業協同組合と連携して行う事業。昨年計画してたとおり、越知町の宮の前公園で、ガサガサであったり川流れ体験、仁淀川流域の災害や自然環境について学べるパネル展の実施をする予定である。内容としては変わらないので資料をつけることを検討したが、まだ交流会議総会での決議が終わってないので、今回は割愛した。

【田岡委員】

河川の利用に関して、畳を持ち込んで、長期間利用しているとの情報があった。これについて何か対策でもすべきではないかと、漁友会議の中で声があったので、ご意見をいただければありがたい。

**【事務局】**

田岡委員からは、昨年も実際に畳を置いて占有をしているときから、情報提供を電話でいただいていた。その時点で、河川管理者である河川課に、位置情報等を伝えてある。状況を見ながらまた対応するとの返事があった。状況によっては高知県警などとも情報共有をしながら、進めていきたい。

(3) 事業の進捗状況について

・事務局から【資料8】を用いて説明

**【主な意見】**

**【大下委員】**

外来種対策のお話があったが、具体的に対象としているものがあるのか。

**【事務局】**

流域で課題になっている外来種に、オオフサモがある。オオフサモを検討したいとは考えているが、ワーキングで、オオフサモ以外の生物を扱うことを検討した場合、それも踏まえながら資料を作成したいと考えている。

**【石川会長】**

RACで水辺の安全教室を行っているが、同時にRACリーダーの養成も進んでいる。なかなか毎年受講者を集めるのに苦労している状況ではあるが、年々RACリーダーの資格を取得をされる方が増えている。昨日も仁淀川の波川で仁淀川ガサガサ探検団を実施したが、そのときにRACの講習で育ったRACリーダーが5名集まった。非常に安全管理が行き届いた中で事業が実施出来たので、本当によかったと思う。

また、流域の皆さんでいろんなイベントをされることがあれば、RACリーダーを活用していただけたらと思う。更なるRACリーダーを増やしていきたいので、入門編から始めて多くの方を募集していきたい。子どもさんに関わる方や地域で活動されている方、心当たりがあれば、推選いただけるとありがたい。

(4) その他 (1時間 15分～)

**【仁淀川漁業協同組合 吉村 代表理事組合長】**

「子どもたちと川！親子で遊ぶ仁淀川」を8月に、例年のシンポジウムや、植樹について吾北の方の山を探して準備をしているので、またぜひともご参加をお願いしたい。

#### 【田岡委員】

上流域として心配しているのは、河川に流入してくる岩が小さくなりすぎて、スムーズに流れない場合があること。そのため、細粒の砂が溜まってしまい、淵がなくなっていく。それが結果的には、下流で瀬切れ化することもあるかと思う。

#### 【多田委員】

この2年間で、流域治水の取組を進めており、今までは自治体の市町村長を中心に議論していたが、今後流域治水の流れを受けて本格的に川の計画を変えようという段階になっている。治水のことに関しては気候変動や全国的な流れ、学識者の会議もあり、内部で作業しているところである。

また、流域治水の冊子を作ったが、山の中のことや水の中の環境についてをこの協議会で清流保全との関係をつっ込んでやっていただけると、それを冊子に反映できると考えている。

#### 【武藤委員】

先ほどの活動報告の中で、コロナで中止になった活動がいくつかあった状況だが、昨今のコロナ難の裏返しで屋外における活動なんかに関心が高まっている。ウィズコロナやアフターコロナといわれる中、現場で今年度より活動が出来るような状況になると期待している。その中で直接お話を聞く機会が皆さんにたくさんあるかと思うので、ご意見を県の方にいただきたい。

#### 【小笠原委員】

国有林の管轄・管理をしているが、嶺北地方で約28,000ヘクタールの国有林があり、それを管理、運営、材木切り出しといった森林の保全をやっている。私たちが事業している範囲は、上流部になるが、現在、民国一体になって、森林整備等を行っている。ウッドショックなどで森林の方に目が見る目が変わってきたり、森林環境税及び森林環境譲与税の関係で森林のほうに割ける予算が増える計画になっている。それを受け、森林の整備や治山治水をやっている。この仁淀川の清流が守られるように引き続き努力したいと思っている。

#### 【中澤委員】

にこ淵に関して、昨年7月から地元の方やいの町役場、いの町観光協会が環境美化のために協力金を募ってはどうかということで、にこ淵に下りていく途中に協力金の箱を設置している。昨年7月から10か月で、約400万寄付が集まっている。寄付金は環境美化のために使う。使用にあたっては、様々な方の知恵を拝借しながら、今後整備を進めていく予定である。

また、先だって高知新聞のほうに掲載させていただいたが、波川地区の町づくり推進協議会で親水公園の整備が令和9年度あたりから供用開始となる。トイレ、駐車場、そして散策の公園整備等も整えていただけるということで、受け入れをする観光協会にとっては本当に嬉しいニュースだと捉えている。事業の計画に向けてバックアップをお願いしたい。

#### 【近澤委員】

私は、伊野製紙工業会だが、アユの稚魚の放流をずっと漁協さんと協賛してやらせてもらっている。あと、上流域の植樹については今年の3月で10回目が終わった。毎年少しずつ木を植えているが、沈殿プールの問題がある。工業会がお金を出して、スラッジを回収し、取ってはいるが、沈殿プールの能力が当初の計画の半分しかないことが、ここ10年ずっといわれている。いの町も沈殿部位から定期的にスラッジを吸い上げて排水処理場で回収しては処分はしている。しかし、沈殿プールの能力が当初の計画の半分しかないので、そこに何とか手を加えてもらわないと、個々の企業でできる範ちゅうを超えてきている。

#### 【大下委員】

河川国道事務所と協定を結んで、川の清掃活動をしているグループが確か15団体あると思うが、年3回の清掃活動をするということで、コロナ前は定期的に集まって活動状況を共有していたが、コロナでなかなかそういった集まりができない状況が続いている。ただ、河川国道事務所仁淀川支所長と情報を共有しながら、活動状況というのは進めている。一斉清掃もなかなか実施が難しい状況であったが、今年度以降開催できるものに関しては、しっかりと参加していきたいと思っている。当社（株式会社相愛）は年3回以上の清掃をすることで、清掃を開始をしているが、国道から堤防に車が入りやすい場所もあり、3か月に1回の清掃時には、毎回同じようなごみの不法投棄が見つかっている。大きなものに関しては、事務所に連絡をして、対応している。

もちろん、直轄の区間であればそういう取組を事務所のほうに上げることはしているが、県が管理する場所では、県担当課に連絡していると思うので、もし不法投棄等があれば、情報共有しながら、そこがごみ捨て場にならないようにしていければと思っている。そのためのごみマップと考えているので、引き続き美しい仁淀川を子供たちにとっている。

#### 【井上副会長】

中澤委員は話されていたにこ淵に関して、今までは溪谷単体でアピールしていたが、地域を絡めた観光を昨年つくっている。今年の4月から販売が始まってJTBさんのタクシープランで売ってもらっているが、少しずつお客さんが来始めている。

また、宮崎のキャンプ場でカヌー体験を盛んにやっているが、お客さんの口コミの中に「ほったからしにされた」と書いてあるものがあった。現在3業者ほどで運営していると思

うが、お客さんから見たら、どの業者も同じに見える。そのため別の業者の所へ先ほどのような口コミを書いていることがある。一生懸命やっている業者にとっては、間違っただけで評判が落とされることとなる。行政か観光協会か分からないが、ある程度基準をクリアした能力のある業者だけを入れるといった基準が要ると感じている。

#### 【石川会長】

私は、水生生物を調べているが、川の中にシルトが多かったり、砂利が多くなって淵が埋まってしまうという問題が仁淀川でも起こっている。森林から河口まで、流域で管理していくという視点がこれからますます重要になってくるので、これから各機関が連携して、川の生態系をよくするような、また土砂移動が適正になるようなそういう方法を考えていけたらと思う。

また、いろいろ観光で人が増えて喜ばしい反面、非常に困ったことも出てきている。色々な適正利用を考える場が出来れば良い。それをどこでやるのかは、仁淀ブルー観光協議会等が中心になってやっていっていただけたらと思う。

近澤委員が話されていたスラッジの問題だが、最初は10基のはずが5基しか出来てないということで、調査行い、SSがここまで落ちてから大丈夫というような結論は出ている。しかし、国は予算の関係で「5基でいい結果も出ているから大丈夫」というようなお話もある。排水路がまっすぐなので排水路の形を変えて、少しでも沈殿を飛ばすような形にするだとか、沈殿しやすいような添加剤はないかなど、いろんな方法からアプローチをし、スラッジが少なくなるようにできたらと思う。

不法投棄については、とにかく通報する。放置することが一番良くないと思う。放置しておけば捨ててもいいんだなと思われ捨てられてしまうので、見つけたら、すぐに通報して何とかするという姿勢を貫いていかなければいけない。

#### 【高知県林業・環境振興部 自然共生課 河野課長】

皆さんの協議を受けまして、清流保全計画は、大変すごい意義があることだというふうに改めて感じたところだ。子供が豊かな自然ある中で、川に触れて遊ぶということが、非常に大切なことだと感じた。川に親しんで豊かな環境で自分が育ったことで、地元を誇りに思う心が育ち、都会へ出たとしてもまた将来帰ってくる、そうしたところで地元の良さの再認識につながると思う。また一斉清掃でも子供たちにもできるだけ参加してもらうことで、捨てない人をつくる。自分が拾う人になれば、ごみを捨てない子どもが育つと思う。それが積み重なれば、捨てる人がいない、きれいなまち、きれいな川が保ててくと思っています。私もまた現場へできるだけ足を運びたい思っているので、また皆さんの声を事務局へ寄せていただけたらと思う。